

製品安全データシート

製造者情報	会社名 : 日本ケミカル工業株式会社 住所 : 〒424-8558 静岡県静岡市清水吉川 813 番地 担当部門 : 技術部 開発 1 グループ 担当者 : 田見 秀行 電話番号 : 0543-45-3476 F A X 番号 : 0543-47-6865 作成日 : 2003 年 12 月 3 日																																			
製品の特定	製品名 : トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 製品分類 : 不凍液 主な用途 : 内燃機関用冷却液																																			
物質の特定	単一製品・混合物の区別 : 混合物 含有成分及び含有量(危険有害物質を対象) <table border="1" data-bbox="446 840 1502 1186"> <thead> <tr> <th>成分(化学名)</th> <th>化学式</th> <th>含有量 %</th> <th>化審法 No.</th> <th>安衛法 No.</th> <th>PRTR 法 No.</th> <th>CAS No.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エチレングリコール</td> <td>HOCH₂CH₂OH</td> <td>88</td> <td>2-230</td> <td>76</td> <td>1-43</td> <td>107-21-1</td> </tr> <tr> <td>水酸化カリウム</td> <td>KOH</td> <td>3 未満</td> <td>1-369</td> <td>非該当</td> <td>非該当</td> <td>1310-58-3</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> <td>H₃PO₄</td> <td>1 未満</td> <td>1-422</td> <td>非該当</td> <td>非該当</td> <td>7664-38-2</td> </tr> <tr> <td>上記成分の他、危険有害性物質に該当しない防錆剤、消泡剤、染料、水</td> <td></td> <td>8~12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 国連分類及び国連番号 : 該当なし	成分(化学名)	化学式	含有量 %	化審法 No.	安衛法 No.	PRTR 法 No.	CAS No.	エチレングリコール	HOCH ₂ CH ₂ OH	88	2-230	76	1-43	107-21-1	水酸化カリウム	KOH	3 未満	1-369	非該当	非該当	1310-58-3	リン酸	H ₃ PO ₄	1 未満	1-422	非該当	非該当	7664-38-2	上記成分の他、危険有害性物質に該当しない防錆剤、消泡剤、染料、水		8~12				
成分(化学名)	化学式	含有量 %	化審法 No.	安衛法 No.	PRTR 法 No.	CAS No.																														
エチレングリコール	HOCH ₂ CH ₂ OH	88	2-230	76	1-43	107-21-1																														
水酸化カリウム	KOH	3 未満	1-369	非該当	非該当	1310-58-3																														
リン酸	H ₃ PO ₄	1 未満	1-422	非該当	非該当	7664-38-2																														
上記成分の他、危険有害性物質に該当しない防錆剤、消泡剤、染料、水		8~12																																		
危険有害性の分類	分類の名称 : 分類基準に該当しない。 危険性 : 危険物 第 4 類第 3 石油類 危険等級Ⅲ 水溶性に該当。 有害性 : 飲用不可・毒性あり(腎臓障害)。 環境影響 : 知見なし。																																			
応急処置	<p>【目に入った場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直ちに大量の清浄な流水で十分洗う。瞼の裏まで完全に洗う。 ・もし刺激があれば、医師の診察を受ける。 <p>【皮膚に付着した場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付着液を紙・布にて素早く拭き取る ・大量の水及び石鹼または皮膚用洗剤を使用して十分に洗い落とす。 ・外観の変化が見られたり、痛みがある場合は、医師の診察を受ける。 <p>【吸入した場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般に吸入するものではないが、充填する場合、換気の良い所で行う。 ・誤って大量のガス等を吸い込んだ場合、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かく安静にする。呼吸が不規則な場合や、吐き気がする場合には、医師の診察を受ける。 <p>【飲み込んだ場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直ちに大量の水を飲ませて吐かせ、様子を見る。 ・様子が異常が感じられる場合は、医師の診察を受ける。 																																			

<p>火災時の措置</p>	<p>消火方法 : 可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除く。 大規模火災には水又は消火剤を使用する。 消火剤 : 水、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、ハロゲン消火剤</p>
<p>漏出時の措置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少量の場合、おがくず、ウエス、砂、紙などを用いて吸着させて空容器に回収する。その後、漏出区域周辺を水で洗い流す。 ・大量の場合は、土嚢で流出を防ぎ、ポンプなどで吸い取る。 ・着火に備えて、適切な消火器を準備する。 ・漏出付近から可燃性のものを速やかに取り除く。 ・河川などに排出しないように注意する。 ・廃棄物は、関係法令などに基づいて処理する。
<p>取扱い及び保管上の注意</p>	<p>【取扱い上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定数量以上の量を取り扱う場合は、法に定められた基準に満足する製造所、取扱所で行う。 ・周辺での火気・スパーク・高温物の使用は避けること。みだりに蒸気を発生させない。 ・換気の良い場所で使用する。(整備工場等の場合) ・静電気が発生する恐れのある設備には、蓄積する静電気を除去する装置を設ける。(ポンプなど送液する場合は、流速6m/s以下に抑える) ・多量に使用する場合は、皮膚、目、顔を保護する適切な保護具を着用する。 ・容器はその都度密栓する。 ・使用時における関係法令(量販店等で販売される個包は除く) 消防法(第10条、13条)、危険物の規制に関する政令(24、25、27条) <p>【保管上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺での火気・スパーク・高温物と接近する場合、みだりに蒸気を発生させる場所は避ける。 (危険物の規制に関する政令第25条) ・類の異なる危険物と同一の貯蔵所に貯蔵しない。(同第26条) ・保管時における関係法令 消防法(第9条3、10条)、危険物の規制に関する政令(第24~26条) 危険物の規制に関する規則(第39条)
<p>暴露防止装置</p>	<p>管理濃度 : 知見なし</p> <p>【設備対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用先を十分配慮の上対応する。 ・整備工場等で取り扱う場合は、吸排気が十分取れる設計を取る。 ・ライン設備の場合、液の輸送、汲み取り、攪拌等の装置についてアースを取るように設置する。 <p>【保護具】</p> <p>呼吸保護具 : 必要に応じて有機ガス用マスクを使用する。 目の保護具 : 必要に応じて保護メガネを使用する。 皮膚の保護具 : 必要に応じて耐油性手袋、保護前掛けを使用する。 その他 : 導電性安全靴</p>
<p>物理的／化学的性質</p>	<p>外観 : 桃色透明液体 密度(20℃) : 1.130g/cm³ 蒸気圧 : 知見なし 溶解性 : 水に易溶 沸点 : 164℃ pH : 8.0</p>

その他	<p>主な引用文献</p> <ul style="list-style-type: none">・ 溶剤便覧・ 危険防災救急便覧・ 急性中毒処置の手引き <p>本製品は J I S K 2 2 3 4 該当製品です。</p>
-----	--

記載内容の取扱い

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分ご注意下さい。